

# 自然遊学館 だより

1996秋 (No. 10)

1996. 9. 20

## シリーズ『貝塚の昆虫(8)』

### 和泉葛城山頂の蛾

本年6月29日和泉葛城山頂で灯火による夜間採集を行なった。筆者はこの催しには参加しなかったが、遊学館のスタッフの上久保、大築、岩崎の各氏のほかに市民の希望者数人が参加した。採集は日没時より午後9時頃まで、頂上の八大竜王社前の開けた所に蛍光灯をセットして行った。この時の採集品を見ると次の注目に値する2種が含まれていた。

#### 1. ニセタマナヤガ *Peridroma saucia* (Heubner) —ヤガ科—

この蛾は何とも見栄えのすっきりしない蛾で前ばねは赤味を帯びた暗褐色で模様もはっきりしないし、個体変異も多い。ただ後ばねが外縁部を除き半透明で白っぽいのが特徴である(この点がタマナヤガに似ているのでニセタマナヤガという)。この蛾が2♂1♀採れていた。ところがほぼ同じ頃自然遊学館前のタイルの上でも1♀(11.VI.'96, 祐成恵子), 1♂(4.VII.'96, 祐成恵子)が採れたのである。

本種は世界に広く分布しているが、わが国からの記録は遅く、最も古いものでも和歌山県有田(1973)のものである。その後、泉佐野市犬鳴温泉(18.VIII.1976), 岸和田市牛滝(31.VIII.1976), 大阪市長居公園(17.I.1977)の記録に続いて大阪

府、滋賀、兵庫、岡山、山口、岐阜、長野の各県、四国、九州、東北、北海道などからも採集されている。

この蛾は南北アメリカでは時に大発生して害虫となることがある。幼虫はキャベツ、ジャガイモ、トマト、オレンジ、トウモロコシ、サトウキビなどの作物のほかにオナモミ、ノゲシ、スベリヒユなどの雑草を食べることが知られている。

本種の分布拡大は蛾のもつ移動力によるものなのか、輸入貨物など人為的な方法によるものなのかは不明である。今回の場合ほぼ時を同じくして海岸の埋立地と和泉葛城山の頂上(857m)付近で採れていることは、本種の移動力の大きいことを示しているように思う。

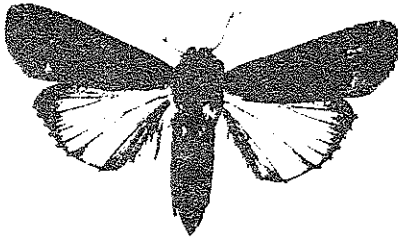
また本種は日本に定着しているのであろうか、あるいは毎年新たな個体群が海外から導入されるものであるのかを類推するためにも、この蛾の貝塚での発生が一年限りであるのか、続く年も発生するのか、今後の動きを注意する必要がある。

#### 2) クモオビナミシャク *Philereme umbraria* (Leech)—シャクガ科—

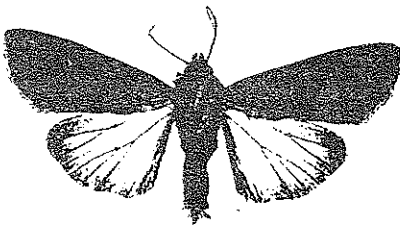
採集品の中に本種の1♂が混ざっていた。本種の採集は近年にないヒットではないかと思われる。地味な色合いの中型のナミシャクであるが、その濃淡のある線の流れは木目にも似て、自然の模様の不思議さを思わせる。この蛾は「本州、四国、九州、屋久島に分布するが、非常に少なく長野県

や静岡県以西でしかとれていない」(日本産蛾類大図鑑, 1:481, 1982)とのことである。

この葛城山頂は標高はあまり高くはないが、山頂付近にはブナの自然林(天然記念物)があり、一帯の落葉性広葉樹の林相は、このような珍品の発生環境を温存しているのであろう。初夏(31.V.1995)にはホトトギス、ツツドリ、メボソムシクイ、ミソサザイ、キビタキ、サンコウチョウなど多くの野鳥の囀が聞かれ、7月下旬には数は少ないがエゾハルゼミ、エゾゼミ、ヒグラシの声が一度に聞かれる。



ニセタマナヤガ(開張46mm)



タマナヤガ(開張46mm)



クモオビナミジャク(開張35mm)

(黒子 浩)

## 二色浜海岸の植物

近木川河口から見出川河口の間の約1kmにおよぶ砂浜は、古くから白砂青松の砂浜として親しまれてきた。大部分は海水浴や潮干狩りなどに利用される植物の生育しない砂浜になっているが、見出川寄りの部分には、古くから海浜植物の生育地があり、海浜植物の群落としては府下最大のものになっている。

この部分は、古くから相当広い範囲にコウボウムギ・コウボウシバ・ハマボウフウ・ハマエンドウなどの海浜植物の群落がみられたが、阪神高速湾岸線の工事及び、海水浴場としての養浜のため、その大半が砂の中に埋もれた。(H3年)

その後、次第に植物自身による群落の復元が進み、現在はほぼ以前の群落の広さに近いところまで広がっている。ただ、以前はコウボウシバ・コウボウムギ・ハマボウフウ・ハマヒルガオなどの海浜植物のみの群落であったが、今はホソムギ・ネズミムギ・コマツヨイグサ・アレチマツヨイグサ・シロバナシナガワハギなどの帰化植物やヨモギ・ギョウギシバなどの侵入が目立ち、海浜植物の生育は良好とはいえない。何らかの保存の手だてが望まれるところである。

ハマボウフウは、防潮堤のすぐ近くにあったものを平成7年12月に工事のために群落内に移植したもので、新芽を出しているものが35株ほど確認でき、一部開花結実したものもある。

ツルナ・ホコガタアカザは、見出川近くのやや水気の多い砂浜にみられる。また、波打ち際に近い不安定な砂地では、1年草のオカヒジキが芽生え、コマツヨイグサ・シロザ・オオイヌタデなども多い。ハマエンドウ・ハマヒルガオは、防潮堤

より山側のかつての松林の中の公園のフェンス沿いの部分でみられる。

近木川河口付近でもアレチマツヨイグサ・ケアリタソウ・ブタクサなどの帰化植物が多いが、海浜植物のツルナ・ハマダイコンもみられる。

29科91種の植物が生育しており、海浜のもののはつぎの9種である。

- ・ハマヒルガオ ・ハマボウフウ
- ・オカヒジキ ・ホコガタアカザ
- ・ハマエンドウ ・ハマダイコン
- ・ツルナ ・コウボウシバ
- ・コウボウムギ

帰化植物は40種あり、帰化率は44.0%と高率である。自然遊学館では、平成6年からこの群落の調査を実施しているが、引き続き、今後も行おう予定である。

きく科ヨモギ・セイヨウタンポポ(帰)・イワニガナ・ノゲシ・セイタカアワダチソウ(帰)・アメリカオニアザミ(帰)・アメリカセンダングサ(帰)・カンサイタンポポ・オニノゲン(帰)・オオアレチノギク(帰)・チチコクサモドキ(帰)・アレチノギク(帰)・ノボロギク(帰)

ききょう科ヒナギキョウ

おおばこ科ツボミオオバコ(帰)

こまのはぐさ科…タチイヌノフグリ(帰)

むらさき科キウリグサ

ひるがお科コヒルガオ・ハマヒルガオ(海)

アメリカネナシカズラ(海)

あかね科ヘクソカズラ

せり科ハマボウフウ(海)

あかばな科コマツヨイグサ(帰)・アレチマツヨイグサ(帰)

ぶどう科ヤブガラシ

かたばみ科カタバミ・アカカタバミ

まめ科シロツメクサ(帰)・ウマゴヤシ(帰)シロバナシナガワハギ(帰)コメツブウマゴヤシ(帰)・カラスノエンドウ・ネコハギ・ハマエンドウ(海)・コメツブツメクサ(海)

ばら科ノイバラ

あぶらな科ナズナ・マメグンバイナズナ(帰)

ハマダイコン(海)

きんぼうげ科タガラシ

ひゆ科ヒナタイノコツチ

あかさ科シロザ・ケアリタソウ(帰)・オカヒジキ(海)・ホコガタアカザ(海)(帰)

なでしこ科シロバナマンテマ(帰)・マンテマ(帰)・ツメクサ・ノミノツツリ・ハコベ・オランダミナグサ(帰)・ウシオツメクサ(帰)

ざくろそう科ツルナ(海)

やまごぼう科ヨウシュヤマゴボウ(帰)

たで科スイバ・ギシギシ・イタドリ・ミチヤナギ・アレチギシギシ(帰)・ヒメスイバ(帰)

にれ科エノキ

かやつりぐさ科ハマスゲ・コウボウシバ(海)・コウボウムギ(海)

いね科ホソムギ(帰)・スズメノカタビラ・ギョウギシバ・チガヤ・ツルヨシ・オニウシノケグサ(帰)・メリケンカルカヤ(帰)・イヌムギ(帰)・ネズミムギ(帰)・ナギナタガヤ(帰)

まつ科クロマツ

わらび科ワラビ

調査日(1996.5.17)(1996.8.25)

(上久保 文貴)

## そぶら夏季自然学習会

1996. 6. 22~1996. 6. 23

於 府立少年自然の家

参加者 70名

6月22日(土)雨のち晴

10:00 挨拶 紹介 注意 今後の予定

少年自然の家の朝エンテション後、雨のためピロイを借りて開会式。再度ピロイへ集まり昼食弁当。宿泊場所、2Fを1Fと間違えていて全員移動

12:10 雨やまず カパを着て秋山川へ

N子さん、道中溝蓋の隙間に足を突っ込み転倒失神? 一時はこの合宿も打ち切りかと思ったが二人の看護婦さん大活躍。打ち身と擦り傷のみで無事、行事続行。水生昆虫班と植物・昆虫班の2班で活動。NHKの取材を受ける。

16:30 ホテル勉強会

スタッフ夜間採集準備、組立キツ不足判明、遊学館へ取りに帰る。リーダー打ち合わせ、他団体と秋山川でホタル観察がचाあうこと判明。

17:00 バードウォッチングのための勉強会

17:45~ 6:30 夕食

18:10~19:10 入浴

19:30 ホテル観察会

秋山川に着くと、ちょうど薄暗がりになり、ホタルちらほら。O氏マソ手づかみ。NHKの撮影は照明がまぶしい。ベイトボに咬まれた子2人

20:50 夜食(カンライパソと牛乳)

21:10 夜間採集(集いの広場のみ)

22:00 就寝

スタッフミーティング中、背中がかぶれたか、虫刺されかで、T也君大騒ぎ、また看護婦さん活躍。当然ながら子供たち寝ない

6月23日(日)晴

5:00 起床

玄関前に集合したのは大人とわずかな子供、揃うのを待ち、先生の注意を聞き、双眼鏡を配布したら、出発は6時前になってしまった。早朝、車も無く、空気も冷たく気持ちいいが、バードウォッチングには人数が多すぎる。望遠鏡3台で林ゾロ、セキレイカササギ、ヒヨドリなどを観察

7:30 自然の家着 バードウォッチングまとめ

8:00 朝食、遅刻

各部屋班長点検

9:30 出発 秋山川上流

昆虫が少なく川にも入れない、となると子供たちは時間をもてあまし、崖登りや、田圃に入って叱られたりした。予定を変更して、各自植物10種採集後、宿舎周辺で昼食弁当

12:30 採集物整理 荷物整理 帰宅準備

13:10 解散 希望者は残って標本整理

反省・バードウォッチングは参加人数が多く、朝食との時間のかねあいや実施場所などに問題あり  
・時間に追われ結果としてハードスケジュールだった  
・夜間採集に時間をとれなかった  
・採集講座を実施したのに、採集物が少ないし、採集物整理の時間が少なかった

次年度案 バードウォッチングはお休みしたい。集合は、土曜日午後3時頃にし、朝エンテションなどをゆくりし夕食後の夜間採集は準備段階から参加してもらう。翌日は早起きして夜間採集の後始末。朝食後、秋山川班と大川班に分け、昼食時に合流して交代。午後2時頃採集物の整理をして解散。

日程 5月24日~25日 (月齢18)

というような案を考えています。

(白木 江都子)

## 大阪府立少年自然の家で採集された蛾類(1)

毎年夏期に蕎原(実際は木積にある)の大阪府立少年自然の家で1泊2日の自然学習会がもたれることが定着し、その際灯火による夜採集が行なわれる。前後2回にわたる灯火採集で採集した蛾類をここに報告する。採集年月日は第1回が1995年6月24日、第2回が1996年6月22日で、各回ともつどいの広場の貯水池に面したところと、少し下り自然植生の中にある流星の広場との2箇所で行なった。

この少年自然の家(宿舎)は標高200mにあり、約10年前(1985年)にオープンした施設で、敷地面積は255,000m<sup>2</sup>あまりで、一部に自然植生(コナラ、ネジキ、ソヨゴなど)が残されてはいるが、大部分は造成に伴ない植栽されたスギ、ヒノキ、ヤマモモ、ヤマザクラ、クスノキ、クリなどより成る、人工的に作られた環境である。周辺の山林もスギ、ヒノキ、アカマツなどの植林で、広葉樹はごく僅かしかない。したがって飛来昆虫は豊かとはいえない。

表中1996年採集のもののみ年号をいれた。年号のつけて無いのは1995年採集のものである。

**ハマキガ科:** アトキハマキ 1♀; ツマジロクロヒメハマキ 1♀ (1996)。

**マルハキバガ科:** クロマイコモドキ 1♀。

**キバガ科:** フジフサキバガ 1♂。

**イラガ科:** テングイラガ 1♀; ムラサキイラガ 1♂ (1996); クロシタアオイラガ 1♀。

**メイガ科:** キボシノメイガ 1♂; キベリハネボソノメイガ 1♂ (1996); モンキクロノメイガ 1♂; トビイロシマメイガ 1♀; シロイ

チモンジマダラメイガ 1♂。

**カギバガ科:** ヒメハイイロカギバ 1♂; ウスギヌカギバ 1♀ (1996)。

**シャクガ科:** アシブトチズモンアオシャク 1♀; セスジナミシャク 1♀; ウストビナミシャク 1♂ (1996); ハグルマエダシャク 1♀; ウスオエダシャク 1♂; トビカギバエダシャク 1♂; キオビゴマダラエダシャク 1♂ (1996); チャウンモンエダシャク 2♂; クロクモエダシャク 1♀; オオトビスジエダシャク 1♂; サラサエダシャク 1♀ (1996); ウスキツバメエダシャク 1♀; コガタツバメエダシャク 1♀。

**フタオガ科:** クロオビシロフタオ 1♀。

**カレハガ科:** リンゴカレハ 1♂; タケカレハ 1♂。

**ヤママユガ科:** オオミズアオ 2♂。

**スズメガ科:** サザナミスズメ 1♂; モモスズメ 1♀; クチバスズメ 1♂。

**シャチホコガ科:** ギンシャチホコ 1♀; モンクログンシャチホコ 1♂; ヘリスジシャチホコ 1♂ (1996); アカネシャチホコ 1♀ (1996); ルリモンシャチホコ 1♂; ウスイロギンモンシャチホコ 1♂; トビギンボシシャチホコ 1♂。

**ドクガ科:** スギドクガ 1♀, 1♂, 1♀ (1996); ヒメシロモンドクガ 1♂, 1♀ (1996); カシワマイマイ 1♂ (1996)。

**ヒトリガ科:** クロスジホソバ 1♀; キシタホソバ 1♀; ムジホソバ 1♀ (1996); ヨツボシホソバ 1♂; キマエクロホソバ 1♂; アカスジシロコケガ 1♂; クロテンハイイロコ

ケガ 1♂, 1♂ (1996) ; スジベニコケガ 1♂ ; フタスジヒトリ 1♂ ; カクモンヒトリ 1♂ ; ベニシタヒトリ 1♂ .

ヤガ科 : ゴマフケンモン 2♀ (1996) ; ナシケンモン 1♂ ; アミメケンモン 1♂ 1♀ ; ウスイロアカフヤガ 1♀ ; ハイイロキシタヤガ 2♂ (1996) ; クロシタキヨトウ 1♂ ; アカスジキヨトウ 1♂ (1996) ; ウスアオヨトウ 2♂ 2♀ (1996) ; ノコメセダカヨトウ 1♂ ; フタテンヒメヨトウ 1♀ ; テンモンシマコヤガ 2♂ ; ウスベニコヤガ 2♂ (1996) ; モモイロツマキリコヤガ 1♂ (1996) ; ネジロコヤガ 1♀ ; シロマダラコヤガ 1♀ ; マエモンコヤガ 1♂ ; ホシコヤガ 1♀ ; オスグロトモエ 1♀ (1996) ; ハグルマトモエ 1♂ ; プライヤキリバ 1♂ ; クビグロクチバ 1♀ (1996) ; シラフクチバ 1♂ 1♀ ; アヤシラフクチバ 1♂ ; リンゴツマキリアツバ 1♀ ; マエジロアツバ 1♂ ; マルシラホシアツバ 1♂ ; ニセアカマエアツバ 1♂ 1♀ .

(黒子 浩)

## 秋山川の水質

調査日 : 1996年6月22日

調査方法 : パックテストを用いて、p. HとCODを測定する。

採水時間 : 1996年6月22日午後1時50分

結果 : p. H 7.5  
COD 0mg/l

## 秋山川の流速

測定方法 : 笹舟を流し、川岸に設けた2点の目印間 (4.0m) を通過する時間をストップウォッチで測定する。

測定時間 : 午後12時40分~12時55分 (15分間)

結果 :

1回目	3.7秒	流速=1.1m/秒
2回目	5.7秒	流速=0.7m/秒
3回目	6.2秒	流速=0.6m/秒
4回目	5.5秒	流速=0.7m/秒
5回目	6.1秒	流速=0.7m/秒
6回目	3.1秒	流速=1.3m/秒
		平均 0.9m/秒

(中谷 憲一)

## 近木川上流 (秋山川) の水生昆虫

恒例の遊学館合宿で今年も秋山川の水生生物を参加者全員で調べました。あいにくの天候で前半は雨にたたられました。一通りの生物が確認されました。

そのうち私は昆虫類を調べましたので報告しておきます。下流部は日本一汚い二級河川として知られる近木川ですが、さすがに上流の支流の秋山川では溪流性の昆虫がたくさん見られます。ヘビトンボやミルンヤンマなどは、やや汚染の進んだ水域の指標種ですが、その他の昆虫はかなり水質のよい環境の昆虫類です。

今後も汚染が上流部まで進まないように秋山川の自然を見守っていききたいものです。(大築正弘)

同定者：大築正弘  
谷田一三

## 子供たちの植物標本

### カゲロウ目

シロタニガワカゲロウ  
コカゲロウ属の1種  
チラカゲロウ

夏合宿も3年目。子供達は川遊びに夢中で、たくさん水生昆虫を観察し、植物のほうでは名札を茎や枝につけ植物名を確認しました。2日目の午後採集物の整理では何人かの子供達がおし葉標本に取り組みました。

### トンボ目

コオニヤンマ  
コヤマトンボ  
ミルンヤンマ  
ダビドサナエ属の1種

関 康子 (小4) ノイバラ、アラカシ、イタドリ  
ドクダミ、ヒメジョオン、サンショウ

関伸宏 (小2) コマツナギ、タラヨウ、アザミ、  
ネムノキ、ウツギ

濱田丈佑 (小4) タカノツメ、キンミズヒキ、ヒメヤシャブシ、コマツナギ、ウツギ、アオツツラフジ、ノブドウ、ヒメジョオン、コウゾ、テイカカズラ、チガヤ、リョウブ、ヤブムラサキ、ツクバネウツギ、ヤブタバコ、ゲンノショウコ、ホソイ、サンショウ

### カワゲラ目

トウゴウカワゲラ属の1種  
フサオナシカワゲラ

鈴子達也 (小4) オヘビイチゴ、チガヤ、ナツフジ、アメリカフウロ、ワラビ、ウツボグサ、コマツナギ、ヤブガラシ、アレチギシギシ

### アミメカガロウ目

ヘビトンボ

西迫康夫 (小4) ミツバアケビ、ヘクソカズラ、ナワシロイチゴ、フユイチゴ、ウツギ、コマツナギ、カクミノスキノ、アカメガシワ、ソヨゴ、コナラ、クリ、ヒメヤシャブシ、ウラジロノキ、サルトリイバラ、ガンピ、ウラジロ、ワラビ

### トビケラ目

ヒゲナガカワトビケラ属の1種  
オオシマトビケラ

長江恵子 (小3) カクミノスキノキ、ソヨゴ、サルトリイバラ、ミツバアケビ、ウラジロノキ、フユイチゴ、サンショウ、ガンピ、クヌギ、ナワシロイチゴ、クリ、コナラ

### ハエ目

ガガンボ亜科の一種

### カメムシ目

シマアメンボ

(湯浅 幸子)

## 近木川の河口干潟に生息するハクセンシオマネキ

ハクセンシオマネキはスナガニ科に属し、雄はその名の通り白い扇に似たハサミで、潮を招くような行動（ウェービング）をするユーモラスなカニです。その地理的分布は伊勢湾以南とされており、大阪湾においては泉南市の男里川河口が北限とされていました。しかし昨年の自然遊学館主催の調査により、近木川河口においてもハクセンシオマネキの生息が確認されました。そして今年の春には昨年生まれた子共達が冬を越し、元気に生活していることがわかりました。

ハクセンシオマネキは環境庁のまとめた「日本の絶滅のおそれのある野生生物」（レッドデータブック）に希少種として掲載されており、生息環境の悪化による種の存続への圧迫が強まっています。近木川にハクセンシオマネキが生息しているということは、かれらの生活の場である干潟が、近木川にしっかりと形成されていることを意味します。干潟は川や海の運んできた砂泥が堆積してできた湿地で、自然の浄化槽的役目を果たします。ところが大阪湾に流れ込む河川は、コンクリートの護岸で固められ、干潟はほとんどみられなくなりました。

遊学館ではハクセンシオマネキが今後、この近木川で個体数を増やし、大きな個体群となっていくのかどうかを調べるために定期的な調査を始めています。 (山田 浩二)

## 近木川 魚類調査（上流～中流）

実施日：1996年9月7日(土)

調査者：牧岩男（和歌山大学教育学部教授）

橋本夏次（貝塚市役所交通公害課）

常国清孝（貝塚市役所交通公害課）

山田浩二（自然遊学館）

\* 地点：蕎原 林道本谷線沿い(標高350～400m)

採集方法：投網、釣り

- ・ アマゴ
- ・ タカハヤ
- ・ カワムツ
- ・ カワヨシノボリ

\* 地点：蕎原 休場橋付近(標高300m)

採集方法：投網

- ・ アマゴ
- ・ カワムツ

\* 地点：水間 上通天橋付近(標高70m)

採集方法：投網、セルビン

- ・ オイカワ
- ・ カワムツ
- ・ ドンコ

大阪には大和川より南部では主要河川がなく、そのため泉州地域の魚類相についての記録はあまりありません。今回の調査で上流から中流にかけて6種類の淡水魚が採集されました。このなかには清流しか住まないアマゴ、タカハヤも含まれています。街中を流れる近木川も上流域は豊かな自然が保たれていることがわかります。

(山田 浩二)



## 遊学館で展示飼育している水族リスト

貝塚市に水族館はありませんが、その役割の一端を当館は担っています。貝塚の海、川、池に生息する生き物がコンパクトに展示飼育されています。大きな水族館と違って、より身近な生物が、より身近に観察できます。餌をあげたり、水換えなどの世話をしてくれる小学生たちや、採集した魚を持ってきてくれる人もいます。さあ、あなたも水の生き物に触れ合う楽しさを味わってみてください。

**海水魚:** メジナ(グレ)、カサゴ(ガシラ)、クロメジナ、カワハギ、オヤビッチャ、スズメダイ、シマスズメダイ、ホシギンポ、カエルウオ、ササノハベラ、ボラ、クマノミ、ソラスズメダイ、カゴカキダイ、タカノハダイ

**淡水魚:** ギンブナ、ゲンゴロウブナ、ニゴイ、タモロコ、モツゴ、アマゴ、オイカワ、ドンコ、タカハヤ、カワムツ、ヨシノボリ

**甲殻類:** アシハラガニ、アカテガニ、イソガニ、クロベンケイガニ、サワガニ、ハクセンシオマネキ、ケフサイソガニ

**棘皮動物:** イトマキヒトデ、バフンウニ

**腹足類:** イボニシ、レイシガイ、イシダタミガイ

**爬虫類:** クサガメ

; 1996年9月15日現在

(山田 浩二)

## 遊学館で飼育している昆虫<2>

春から、夏・秋にかけて多くの種類の昆虫が活動するようになり、当館でも飼育ケースを増やしています。3つの常設のケースでは、春と同じく、オオカマキリ、バッタ類、カブト・クワガタを飼育しています。8月24日現在、オオカマキリはメス成虫1匹になっています。このメスはケース内で春にふ化した幼虫が発育したものです。春にたくさんふ化した幼虫は、共食いなどで死んでしまいました。去年も1匹しか成虫にならなくて、今年は餌を多く与えたのですが、結局、生き残ったのは、メス1匹だけになりました。オスは野外から採ってきて交尾させようと考えています。春には、クビキリギスの成虫を飼育していたのですが、現在、バッタ類は、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ、イボバッタなどを飼育しています。カブトムシは去年から飼育していた幼虫が、6月8日から羽化し始めました。千石荘や馬場で採集したカブトムシの成虫をケースに加えています。また、コクワガタ、ミヤマクワガタ、アカアシクワガタなどのクワガタ類も飼育しています。甲虫類は、昼間は腐葉土の中にもぐっていることが多く、展示向きではないようですが、夕方から夜にかけては、外に出てきて、餌を食っていることがあります。

これらの常設のケースの奥に、キリギリス、ヤブキリ、エンマコオロギ、スズムシ、ショウリョウバッタ、の飼育ケースを新たに設けました。キリギリスの成虫の採集はふつう、炎天下で非常に体力を使う作業ですが、上久保館長の家では、隣の草地から家の中へ飛び込んで来るそうで、約10個体を飼育しています。現在、キリギリスとスズ

ムシが盛んに鳴いています。コオロギは終齢幼虫で、もうすぐ成虫になり、鳴き始めると思います。

(岩崎 拓)

### 貝塚のオオキンカメムシ

1995年6月末、松谷賢君(二色小3年)が二色4丁目緑道で、オオキンカメムシを採集。1996年6月15日、松谷賢君(二色小4年)が自宅の庭(二色4丁目)で2匹目を採集。6月24日脇浜町会長武本正氏が、変わった虫を自宅庭(脇浜2丁目)で捕まえた、遊学館に持ってこられた。お馴染みになったオオキンカメムシだった。この個体をツバキの葉を主にして館で飼育した。7月25日には、ぶどう色の透き通った卵を50個生んだが、無精卵だったようで孵化せず、成虫も7月31日に死んだ。

3頭目のオオキンカメムシが採集された時点で大阪市立自然史博物館評議員の桂孝次郎氏に連絡。貝塚市の海岸部で3頭も採集されたことに意味があるのかどうか尋ねると、それは面白いと、すぐカメムシ研究会の竹本卓哉氏を紹介して下さった。

カメムシの幼虫が育つために必要なアブラギリが近くに無いかとの竹本氏の間に「あるある、千石荘(貝塚市名越)にいっぱいある」と上久保館長。電話の向こうの竹本氏はうめき声に近い歓声をあげ「よく似たシナアブラギリ(オオアブラギリ)では、幼虫は育たない」とたんに揺らぐ館長「千石荘のはシナアブラギリかもしれん」。

7月7日、館長以下3名「自然遊学館アブラギリ探索隊」千石荘へ出発、やはりシナアブラギリのようで落胆。オオキンカメムシも発見できず。

7月20日、竹本氏に奥野晴三氏も加わって「アブ

ラギリ探索隊」は千石荘へ。ひどい雨で見つけ難かったが、オオキンカメムシの成虫5頭と2齢幼虫群を発見、後者は竹本氏の捕虫網で2頭採集され、遊学館で飼育を始めた。2頭とも活発に動いていたが、7月25日1頭死亡。あわてて生ピーナツを購入。与えると3分もたたないうちにストローをつきたてて吸い始めた。8月2日2齢幼虫が脱皮して3齢幼虫になり、8月11日3齢幼虫が4齢になり、シナアブラギリ生まれの新飼育記録か、と喜ばせてくれた。黒子顧問の手厚い飼育の甲斐なく8月23日死んでしまった。

なお蕎原の川岸にアブラギリが1本あると館長の新報告もあり、オオキンカメムシの幼虫が、千石荘のシナアブラギリで育っているのかどうかなど、今後興味ある問題が山積みである。

(白木 江都子)

自然遊学館だより 1996秋 NO. 10

編集 白木 江都子

発行者 上久保 文 貴

発行所 自然 遊学館

貝塚市二色3丁目26-1

TEL. 0724-31-8457

開館時間 午前9時~午後9時

休館日 毎週火曜日